

成空第 653 号
平成 26 年 12 月 22 日

検証！ 成田空港と住民の暮らしシンポジウム
市東さんの農地取り上げに反対する会

共同代表 坂本 進一郎 様
井村 弘子 様

成田市長 小 泉 一 成



「申し入れ書」に係る要望について（回答）

時下、貴職におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃から市政に対しまして、格別のご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、平成 26 年 12 月 1 日に申し入れのありました要望事項につきまして、下記のとおり回答いたします。今後とも、地域の皆様からのご意見をお伺いしながら、騒音対策や地域振興策等に取り組んでまいりますので、ご理解のほどお願い申し上げます。

なお、国土交通省、千葉県及び成田国際空港株式会社へは、平成 26 年 12 月 22 日付け文書で、申し入れ書の写しを添えて要望事項をお伝えいたしましたので、ご報告させていただきます。

記

【要望 1】

離着陸制限（カーフェュー）緩和の撤回を求めます

【答え】

国土交通省及び空港会社から提案された「カーフェューの弾力的運用」につきましては、昨年 3 月 29 日に国、県、空港周辺 9 市町及び空港会社で構成されております「成田空港に関する四者協議会」におきまして、「成田空港の離着陸制限（カーフェュー）の弾力的運用に関する確認書」を締結しております。この確認書の中で、生活環境保全の観点から、「現行の離着陸制限（カーフェュー）時間及び 22 時台の便数制限（A・B 滑走路とも 10 便まで）を引き続き厳守するとともに、弾力的な運用が最小限となるよう航空会社の指導を強化すること」や「弾力的な運用によって、なし崩し的に運用時間が拡大することのないよう、23 時以降に新たなダイヤを設定しないこと」などについて遵守することを確認し、その実施について合意しております。

本市といたしましては、カーフェューの弾力的運用について、関係機関とともにこれら合意事項の検証を行い、確実に履行されるよう取り組んでまいります。

【要望 2】

年間発着容量 30 万回の撤回を求めます

【答え】

空港容量 30 万回につきましては、平成 22 年 10 月 13 日に「成田空港に関する四者協議会」において合意したものであり、30 万回合意後の動きとして、LCC の新規就航など、成田空港の発展は、地域経済の発展にも大きく寄与するものと考えております。

しかしながら、成田空港においては、容量拡大に伴い今後も発着回数の増加が見込まれ、騒音地域の生活環境に影響を及ぼすことから、平成 23 年度より航空機騒音地域補助金、民家防音家屋等維持管理費補助金を拡充したほか、平成 25 年 7 月より、成田空港周辺地域共生財団において、現行の C 工法の防音工事に追加して、新たに壁及び天井部分の防音工事を実施し、屋内における航空機騒音の更なる軽減を図っているところであります。

本市といたしましては、騒音・環境対策、共生策などが適切かつ確実に実施されるよう、引き続き、国、千葉県、空港会社など関係機関と連携を密にして、取り組んでいくことが大変重要であると考えております。

【要望 3】

「第 3 滑走路」構想の撤回を求めます

【答え】

第 3 滑走路の整備につきましては、本年 7 月に国から公表された「首都圏空港機能強化技術検討小委員会」の中間取りまとめにおいて、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック以降の方策の一つとして示されたものであります。現在、国土交通省からは、あくまでも技術的な選択肢としての取りまとめであるとの説明を受けております。

滑走路整備等の成田空港の機能強化につきましては、国の考え方として、まずは地域との共通認識を形成するため、地域と共に成田空港の将来像等について理解を深めたい、との事であります。

いずれにいたしましても、成田空港の機能強化には住民の理解が不可欠でありますので、議会をはじめ、騒音地域の方々への速やかな情報提供と、丁寧な説明を国に対して求めてまいります。

【要望 4】

離着陸禁止時間帯を拡げることを含む、抜本的な対策の実施を求めます

【答え】

昨年 3 月のカーフェューの弾力的運用の実施に際しても、改めて現行のカーフェュー時間及び 22 時台の便数制限の厳守が確認されており、現行の運用時間につきましては、国と地元との重い約束でありますので、関係機関と連携を図り、運用時間が厳守されるよう取り組んでまいります。

なお、夜間騒音につきましては、現行の評価指標である L_{den} は、夜間の睡眠妨害の評価には適していないことから、本市では国に対し、夜間の睡眠妨害を評価できる指標の追加を要望してきたところであります。

しかしながら、現状では夜間騒音の実態が反映される指標や基準値は定められていないことから、千葉県をはじめ空港周辺市町との連携を図りながら、指標の追加について粘り強く働きかけてまいります。